

＼地元の茶園（茨城県・常総市）長治園で♪／ お茶摘み体験交流会・淹れ方講座のご報告

2025年9月13日酷暑が過ぎ、涼しくなってきたタイミングでのお茶摘み交流会の開催となりました。当日は満員御礼！20名余りの組合員さんにご参加いただくことができ、とても賑やかな会になりました。



まずは茶畠でそれぞれ茶摘みを体験、柔らかい芽だけ持ち帰る方、何袋もたくさん摘まれる方とみなさん思い思いにお茶摘みを楽しまれていました。



「茶摘み娘」の衣装も長塚さんが用意してくれて、ご家族で着て写真撮影されて思い出作りにもなったかと思います。



戻って工場見学は貴重な機械を見せていただき、そのあとは急須を使ったお茶の淹れ方を長塚さんが組合員さんにレクチャー。小学生のお子さんが実際にトライして、みなさんにおいしいお茶をふるまっていました。

解散後もお店でお好みのお茶や、茶器などをご購入されて終始楽しい交流会になりました。

（商品部 飲料担当 まきこ）

2025年10月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●	○提携・協同・連帯企画●
○「常総っ子応援団」in流星台プレイヤーク：毎週木曜日 10～14時活動中です！（出入り自由）開催日は常総生協ホームページ（イベント一覧）をご覧ください。	10/25・26（土・日）甲状腺検診@那須塩原
10/4（土）生協まつり（取手ウェルネスプラザ） 10/25（土）臨時総代会 10/14（火）プラスチック部会 10/17（金）リアス昆布巻き講習会	

生協ホームページ

各種募金は、下記【注文番号】で、毎週受付しております。ご協力をお願い致します。

Instagram



- ★【注文番号: 500251】東海第二原発差止訴訟基金 1口500円
- ★【注文番号: 500252】関東子ども健康調査支援基金 1口1000円
- ★【注文番号: 500253】被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】 1口500円
- ★【注文番号: 500254】JOSO脱プラ基金 1口500円
- ★【注文番号: 500257】岩瀬牧場・養豚基金 1口500円



<参加者の感想>

- ・初めてのお茶摘み体験で親子ともども楽しむことができました。摘んだ葉を家で炒って緑茶にし、とても貴重な体験ができました。（つくば市・Eさん）
- ・お茶畠での茶摘みが初めてだったので、とても新鮮で楽しかったです。摘んだ茶葉で、教えて頂いた通りにお茶にしてみたら、ちゃんとお茶ができたので嬉しかったです。
お茶の保存方法や茶葉からお茶にする実演も見たかったです。収穫時期や部位による飲み比べなどもやってみたいです。
- 近くの生産者さん（お茶以外）の製造現場にも見学に行きたいです。（柏市・Fさん）

不安虫ちゃんと一緒に知ろう＆考えよう！香害についてパネル展の報告

ニュースレターに香害について寄稿した組合員のつくば市Tさんが中心となって企画した、つくば市洞峰公園で行われた9/1(月)・9/2(火)「香害のパネル展」。以下スタッフとして参加した報告です。

平日の昼間で、公園内の休憩スペースのような場所にも関わらず、多くの方が来場され関心の高さを感じました。県外からSNSで知った方や、常総生協の組合員も数人来られてました。
(中にはパネル展を私も開催したくてとおっしゃる方も)



不安虫ちゃんが教えてくれるパネルは、

- ・化学物質過敏症のこと
- ・匂いを感じるしくみ
- ・世界でこの問題(香害)をどう取り組んでいるか
- ・マイクロカプセル・マイクロプラスチックのこと
- ・生乾き菌のこと

など、盛りだくさん。

当事者の声→



←見学者にメッセージを書いてもらうボードも。
引き換えに不安虫ちゃんステッカーが貰えちゃう。

10/4(土)生協まつりでも、パネル展示を予定しています。ぜひ、お越しください。
(職員 稲垣)

開催を終えて・・・主催したつくば市Tさんからメッセージを頂きました

化学香料への過敏度を5段階で例えると私は3程度。お札のニオイが強くて財布にしまえず、ビニールポーチに入れています。出先のイスに座る際も移香を避けるためにシートを敷くなど、日常に工夫が必要です。

今回の展示では、過敏度0～1の方が手伝いを通じてその感覚に触れてくれました。香りの害について色々な方と、少しでも共有できたことに感謝しています。

「子ども応援プロジェクト夏2025」の食料支援 報告

8月4回Newsletterで常総生協に集まった支援を主催団体へ届けたと報告をした「子ども応援プロジェクト夏2025」。その主催団体のフードバンクいばらきより、支援先へ届けましたよ！と報告がありましたので、お知らせします。
(職員 稲垣)

給食のない長期休み期間の子どもたちを食で支援する「子ども応援プロジェクト」通算15回目の2025夏子ども応援プロジェクトが終了しました。共催の協同組合ネットいばらき、茨城県生活協同組合連合会のご協力をはじめ、企業や個人の皆様から大きなお力をいただいての開催でした。

今回は**16団体**を通じて、日立市・水戸市・城里町・つくば市・土浦市・牛久市・龍ヶ崎市・阿見町・美浦村・稲敷市・小美玉市・つくばみらい市・守谷市の13市町村の**425世帯**に、お米やおかずになる食品・お菓子などをお届けすることができました。食品、寄付金、ボランティアなどでこの活動を支えていただいた皆様、ありがとうございました！



いただいた声（一部抜粋）

★夏休み前で食料がかかる、野菜やお菓子を頂き家計にとても助かります。お米も週に2回しか食べれてなくて今回の頂きで夏休みとてもとても助かります。本当に多くの方々皆様ありがとうございます

★どれも生活の中で必要なものばかりでとても助かっております。シングルマザーでいて子供と2人、プレゼントを頂く機会もないので「ママ頑張ってね」って、宝箱みたいなプレゼントを頂けたみたいでいつも嬉しくわくわくしながら開封させて頂いてます。支援して下さる方がいること、本当に感謝しております。最後まで美味しく食べ切らせて頂きますね。

★夏休み直前のフードバンクはとても助かります。本当にありがとうございます。夏休みには1日3食食べさせないとならないプレッシャー。お米がとてもはかどります。でも、現在の物価高騰でお米どころか食材もお菓子も飲み物も手を出せなくなっています。その時に、お米、野菜にお菓子、レトルト類。感謝しかありません。

★昨今、米騒動の最中、米も手に入らなく、夏休みが始まるときでもあり困窮してたところの配布に非常に感謝しております。

★夏休みの子供達の食事にちょうどよい物ばかりで、日持ちするひだまりパンが良かったです。パンはよく買いますが日持ちしないので買いためできませんが、このひだまりパンは夏休み中もずっと置いておけるので子供達が好きなときに食べられるので重宝します。ありがとうございます。

★母1人の収入では家計が非常に厳しく子どもに食事の面で栄養バランスを考えた食事を与えたくても、出来ていないのが現状です。今回は採れたて野菜がありとても感動しました。美味しいお野菜を食べると子どもたちは、笑顔で美味しいねって微笑んで食べてくれます。また、いつもお米をお分けいただきありがとうございます。とても美味しくいただいております。子どももご飯美味しいねって食べています



常総生協に関わるみなさん、こんにちは(^^)
ハチドリ仲間(南米・先住民の昔話、森の火を消そうと
小さな嘴・くちばしで水を運ぶハチドリのお話より)をつなぐ
新しいコーナー「ハチドリ・レター」です。
今週は監事の桜村(松田)さんからです♪



有難いことに、今年も新米の季節がやってきました。みなさんも、美味しいお米を、安全なお米を頂けることの有難みを噛みしめたことと思います。

私たち消費者は、いったいどれぐらいお米について知っているでしょうか？

子どものころ、小学校の校庭の隅で、米作りを体験しました。最初は田植えからでした。でも、この本『お米ができるまで』は、100ページまで読み進んでも、まだ田植えにならないんです。その前に、やることはたくさん！あります。

ぜひ、図書館で借りて読んでみてください。私の勤務しているJICA筑波（つくば市高野台）の図書室でも借りられますよ。（茨城新聞のSDGs特集記事に合わせて、時々オススメ本の紹介をしています。今回はお米の本なので転載させて頂きました。）

（監事 桜村(松田)ミカ）

茨城新聞(8月21日付「SDGsプロジェクト」より)

もっと 知りたい！

松田ミカさん
(JICA筑波図書館司書)

SDGsへの理解を深めたい人にお薦めの本をJICA筑波図書館の司書、松田ミカさんが紹介する「もっと知りたい！」。本年度の初回は、昨秋来の価格高騰や備蓄米放出で話題の米について、身近な存在なのにあまり知らない稻作を知る本です。

お米ができるまで

講談社（2015年）岩貞るみこ 作／武田美穂 絵

汗と涙、愛の米作り

「これは、新潟県魚沼市の山の中にある田んぼで、米作りにはげむ、ある農家の話である」（見開きより）。まるでカッコいい映画のようだ。そして、読み終わった時は映画を観たような感慨深さであった。

日本一と言われる魚沼産コシヒカリを作る農家の7代目、「ダイヒョー」（39歳）の田んぼは、山の中腹にあり手間がかかる。その上、近所の人生の先輩たちから「うちの田んぼも作って」との依頼が増え、見習いの「シンイリ」を雇うことに。序盤からピンチが続く。雪かきして育苗ハウス作り、種モミの選別、種モミをお湯に浸して消毒（ダイヒョーは有機栽培のお米も作っている）、水風呂での浸種（種モミが呼吸を始める）など、時計や温度計とにらめっここの繊細な作業と田起こし。そんな中、シンイリがミス連発！ここまでで100ページを超えた。が、まだ田植えも終わっていないのだ！（うっかり者の消費者は、米作りは田植えからだと思っている）

さあ、ダイヒョーとシンイリと一緒に汗と涙、愛の米作りを体験しよう！お米って、やっぱりなんてありがたいんだろう！